

平成 30 年 6 月 18 日

碧海信用金庫

各位

2018 年 3 月期（平成 29 年度）決算発表

碧海信用金庫（理事長：石川 澄夫）は、2018 年 3 月期（平成 29 年度）の決算について、以下のとおり業績の要約を公表いたします。

記
1. 主要業績数値

		2018 年 3 月期 (当期)	2017 年 3 月期 (前期)	増 減
預貸金状況	預金積金残高	2,043,521 百万円	1,967,507 百万円	+76,014 百万円 (+3.86%)
	貸出金残高	1,042,024 百万円	1,021,795 百万円	+20,228 百万円 (+1.97%)
損益状況	実質業務純益	4,854 百万円	4,941 百万円	△86 百万円
	経常利益	5,615 百万円	5,629 百万円	△14 百万円
	当期純利益	4,130 百万円	4,105 百万円	+25 百万円
健全性	純資産額	180,355 百万円	178,427 百万円	+1,928 百万円 (+1.08%)
	自己資本比率(単体)	15.84%	16.98%	△1.14 ポイント
	不良債権比率	3.07%	3.14%	△0.07 ポイント

※ 単位未満切捨て表示。

※ 不良債権比率は金融再生法ベース。

2. 業績コメント
〔預貸金状況〕

○預金積金残高は、法人預金・個人預金ともに増加し、前期比 76,014 百万円増加の 2,043,521 百万円となりました。貸出金残高は住宅ローン、事業性融資などの増加により、前期比 20,228 百万円増加の 1,042,024 百万円となりました。

〔損益状況〕

○貸出金利息などが減少したものの、有価証券利息配当金や株式等関係損益の増加などにより、実質業務純益 4,854 百万円、経常利益 5,615 百万円、当期純利益 4,130 百万円となりました。

〔健全性〕

○金融機関の安全性を表す代表的な指標である自己資本比率（単体）は、預金の増加に伴う総資産の増加等により、前期比 1.14 ポイント低下の 15.84%となりました。信用金庫に求められる国内基準（4%）を大きく上回っており、当金庫の安全性は極めて高い状態にあります。

○不良債権比率（金融再生法ベース）は、地域経済への影響を十分に考慮しつつ減少に努めた結果、前期比 0.07 ポイント低下の 3.07%となりました。

以 上